

### 《3》目的格

文中で動詞や前置詞の目的語として用いるものを目的格と呼ぶ。❶の **them** は動詞 call の目的語として使われている。

**類例** “Do you have the English textbook?” “No, I don’t have **it**.”  
「英語の教科書持ってるかい」「いいえ、持っていない」

**【!】** 以下の例のように、(話)では文法的には主格が要求される箇所に目的格が使われることが多い。

“Hi, can I talk to Mr. Hashimoto?” “It’s **me**.”

「もしもし、橋本さんにおつなぎいただけませんか」「私（が橋本）です」

“I saw that TV program.” “**Me**, too.” 「あのテレビ番組、私観たんだ」「私も」  
Everybody was happy, but not **me**. みんなが幸せだった。私以外は。

他動詞や前置詞の目的語が主語と同一の〈人・モノ〉の場合に再帰代名詞を用いる。

10の他動詞 **introduce** が **myself** という目的語を取って、「自分自身を紹介する=自己紹介をする」という意味になる。11では、〈**take care of ...**〉(…の世話をする)という句動詞の目的語として **yourself** が使われ、「自分で自分の世話をする」という意味になる。

**コーサス** 〈他動詞+再帰代名詞〉の注意すべき表現

behave oneself (行儀よくする)      **devote oneself to ...** (…に専念する)

dress oneself (〈服を〉着る)      **enjoy oneself** (楽しむ)

**find oneself C [doing]** ((予想外だが) 気づくと自分が C である […している])

**help oneself to ...** (自分で…を取って食べる, …を自由に使う)      **hurt oneself** (けがをする)

introduce oneself (自己紹介する)      **kill oneself** (自殺する)

**make oneself at home** (くつろぐ)

**make oneself understood** (自分自身を人に理解してもらう) (→ p.246, 248)

seat oneself (座る)

**take care of oneself** (自分のことは自分でやる; 〔命令文で〕お身体大切に)

talk to oneself (独り言を言う) など

**コーサス** 〈前置詞+再帰代名詞〉の定型表現

beside oneself (我を忘れて)      **by oneself** (1人で, 独力で)

**for oneself** (自分で, 自分のために)      **in itself** (それ自体で)

in themselves (それら自体で)      **in spite of [despite] oneself** (意思に反して)

by [〔文〕 of] oneself (ひとりでに)      **to oneself** (自分だけが使うのに) など

**類例** I tried to *make myself understood* in English.

私は英語で自分の言いたいことを伝えるようトライしてみた。

“Can I use your smartphone?” “Sure, just *help yourself*.”

「あなたのスマートフォンをお借りしていいかな」「もちろん、どうぞご自由に」

I can't do all these things *by myself*.

これらの諸々を、自分1人で仕上げるなんてできないよ。

Jane lost her son in an accident and *killed herself* in despair.

ジェインは息子を事故で亡くし、絶望のあまり自らの命を絶った。

The light goes out *by itself* during the day.

その照明は日中は自動的に消灯される。

## 《1》形式主語の場合

25 It is important to review what you have learned in class.

780

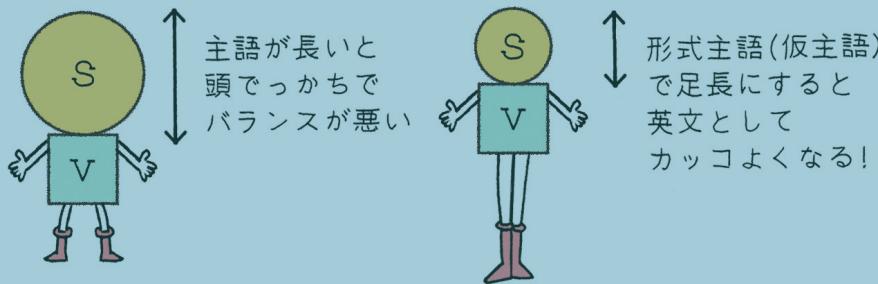
授業で学んだことを復習するのは大事です。

26 It is clear that they enjoyed their stay in London.

781

彼らがロンドン滞在を楽しんだことは明らかです。

主語が不定詞句や that 節など (=真主語) の場合、そのまま主語の位置に置くと頭でっかちでバランスの悪い文になってしまって、形式主語 (仮主語) の it を文の主語の位置に置いて、真主語は後に回す。25の it は to review 以下の不定詞句、26では that 節の代わりに使われている。



**類例** It is a shame that you are going to quit the team.

君が退部するとは残念だ。

It is not surprising that he got straight A's on his report card.

彼が通知表でオール A をもらったのは別に驚くようなことではない。

**【!】** 不定詞句・that 節以外にも、真主語に動名詞句、疑問詞が導く名詞節 (whether, why, where など) が来る場合もある。

It is no good complaining about the bad weather.

悪天候に文句を言っても仕方がない。〔この good は名詞〕

It is no use arguing with your parents.

自分の両親と口論をしても無駄だ。〔この use は名詞〕

It is not certain when he will arrive. 彼がいつ来るのかははっきりしない。

〔when 節は名詞節なので未来の内容には will が必要〕

主語の場合と同様、目的語に不定詞句や **that** 節など（＝**真の目的語**）が来る場合、**〈SVOC〉** の文型で、形式目的語 **it** を目的語（O）の位置に置いて、真の目的語（上例の下線部）を補語の後に回す形をとる。この形をとる動詞には、**believe**、**consider**、**find**、**make**、**take**、**think** などがある。

**類例** The Internet makes **it** easier for us to study English.

インターネットのおかげで英語の学習が簡単になった。

We thought **it** unlikely that our team would advance to the finals.

私たちは我が部が決勝に進出することはまずないだろうと思っていた。

I consider **it** important to keep promises.

私は約束を守るのは大事なことだと思う。

We will make **it** clear who is to blame.

それが誰のせいなのかはっきりさせておこう。

I'll see to **it** that your name is on the waiting list.

あなたのお名前がキャンセル待ちリストにあるか、私が確認しておきましょう。

## 発展 後続の内容を示す **it**

一部の表現では **it** が後ろの内容を受けることもある。

I would appreciate it if you would give me a quick reply.

早急にお返事を頂ければ幸いです。〔**it** は **if** 以下を指している〕

I can't stand it when you do that.

お前がそんなことをするのは我慢ならない。〔**it** は **when** 以下を指している〕

I hate it when you do that. あなたのそういうところが嫌い。〔**it** は **when** 節を指す〕

I would love it if you could come with me to the gym.

ジムに一緒に行ってくれるとうれしいな。〔**it** は **if** 節を指す〕

【!】 以下の表現に見られるように this [these], that [those] が時間的な遠近で用いられる。

this [these] – this morning (今朝), this week (今週),  
these days (最近は)

that [those] – that day (その日), at that time (その時),  
in those days (その当時は)

※ This が単独で、「今」や「今日」を表すことがある。

“**This** is Saturday?” “**This** is Friday, August 29th.”

「今日は土曜日だよね」「今日は 8 月 29 日火曜日だよ」

【!】 電話では、this が以下のように用いられ、自分や話し相手を指す。

A: Can I speak to Hitoshi Takeda? **This** is Nobuyuki Sasaki.  
武田仁さんをお願いします。佐々木信之といいます。

B: (**This** is) Hitoshi Speaking. 私です。

## 《2》節や文の内容を指す this, that

31 Some people say *that Tom is a difficult person*, but **that** is a big misunderstanding. 786  
トムは付き合いづらいやつだと言う人もいるが、それは大きな誤解だ。

32 “*We are just trying to keep things in order*.” ... Well, **that** is what they say.  
「私たちは秩序をもたらそうとしているだけだ」…まあ、連中はそう言っているけどね。 787

33 I'll tell you **this**: *Stay away from my girlfriend!* 788  
ちょっと言っておきたいんだけど。「おれの彼女に手を出すな」ってね。

this, that は単独で用いて節や文の内容を指すことができる。31の that は直前の that 節の内容を、32の場合は直前の文全体の内容を指している。33の this は後に述べる内容を指している（これから述べることを指す場合には this しか使えない）。これは主に（話）で、話題を切り出す場面でよく用いられる用法である。

**類例** *I went to a concert yesterday, and **that** was terrific.*

昨日コンサートに行ったんだけど、そいつが最高だ。

〔（話）では相手の言葉に強い気持ちで応答する際にしばしばThat's [was] ... の形が用いられる〕

*People are so nice and kind. **That's** what I like about my hometown.*  
人々が気持ちよく、親切なんだ。故郷の、そんなところがとても気に入っている。

*He was using his cellphone while riding his bicycle. **This** caused the accident.* 彼は自転車に乗っているときに携帯を使っていた。それが原因で事故が起ったのだ。

*Always remember **this**: Don't overeat before the game.*

いつでもこいつを忘れるな。試合前には食べ過ぎるな、ってね。

**【!】** 〔（話）で相手の言った発言全体を指すときには、that を使う。this にこの用法はない。会話している相手の発言であるため自分と距離感があると捉えられ that が使われると考えられる。〕

“*Can I leave my bag over here?*” “**That's** okay.” (× *This is okay.*)  
「かばんをこちらに置いておいていいですか」「かまわないですよ」

《4》 《かたく》 **those who ...** (…する人々)

36 People who exercise regularly are healthier than **those who** do not.

定期的に運動をする人は、しない人より健康である。

791

〈**those who ...**〉の形で「…する人々」という意味になる。〈(**those**) **people who ...**〉とほぼ同義。

**類例** Good things come to **those who** wait.

よい事は待つ者のところに訪れる。→果報は寝て待て。[ことわざ]

**Those of you who** are interested in this book, please let me know after the talk. この本に興味のある方は、講演の後に私にお知らせください。

〔〈**those of you who ...**〉は、ある一定の集団に呼びかける際の、(話)で用いる定型表現〕

Most of **those (who were)** present were young women.

出席者の大半は若い女性であった。

〔who 節中の動詞が be 動詞の場合は、who と be 動詞が省略されることもある〕

## 2 so, such, the same

《1》〈S + V + so〉



792

37 “Is she an Aquarian?” “Yes, I think **so**.”

「彼女はみずがめ座だったっけ」「はい、 そうだと思いますよ」

38 I should have called you, but I was too busy to do **so**.

793

君に電話をすればよかったんだけど、忙しくてできなかつたんだ。

もともと副詞である so が、前に出てきた句や節、文を受けて、代名詞的に使われることがある。37の so は前の文の内容全体を指し、38の so は call you を受けている。

**類例** “Are you coming to the party tonight?” “No, I don’t think **so**.”

「今晚のパーティには来るのかい」「いや、行かないと思います」

**コーパス** 前の句・節・文の代わりに so を使う主な動詞句

be afraid, believe, expect, guess, hear, hope, it seems [appears], say, suppose, tell, think, understand など

**【!】** hope, be afraid などについて、否定の内容の that 節などを受ける場合には、not を使う。

“Will it snow tonight?” “I **hope not**.”

「今晚雪かな」「そうじゃないといいんですけど」

**【!】** tell の場合は間接目的語が必要になる〔もしくは受け身〕

My wife always **tells me so**. 妻はいつも私にそう言う。

## 《2》〈So + V + S〉

39 “I'm in a hurry.” “So am I.” 「ぼくは急いでいるんだ」「こちらもです」 794

40 “I have seen this movie before.” “So have I.” 795

「この映画、観たことあるよ」「私も」

so が先頭に来て、主語と動詞（助動詞）が倒置され、前文の内容を受けて「S もまたそうだ」という意味を表す。39は “I'm in a hurry, too.” と同じ意味（▶ pp.458-460）。40では “I have seen it, too.” と同じ意味で、so が最初に来ることで助動詞 have と主語の I が倒置されている。

【！】一般動詞の場合は do/does/did などを使う。

“I really like baseball.” “So do I.” 「野球が大好きなんだ」「私も」

## コミュニケーション

〈nor [neither] + V + S〉 「S もまたそうではない」

否定文を受けて、「S もまたそうではない」という場合は、〈nor [(and) neither] + V + S〉を使う（▶ pp.458-459）。

I don't drink coffee, nor does he.

≒ I don't drink coffee, and neither does he.

≒ I don't drink coffee, and he doesn't, either.

ぼくはコーヒーを飲まないし、彼も飲まない。

## コミュニケーション

〈So + S + V〉 「まさにそのとおりですね」

“Sayumi is smart.” に対して、 “So is her sister.” と応えると「彼女の妹さんもそうだ（同様に賢い）」という意味になる（her sister を強く発音する）が、 “So she is.” と応じると、「本当にそうですね（さゆみさんは賢いですね）」という同意を表す（この場合、 is を強く発音する）。

### 《3》 such

④ After that, she burst into tears. **Such** was her disappointment. 796

その後、彼女はわっと泣き出した。それほど落胆だったのだ。

such は代名詞として、前に出てきた語句を受けて「そのような人・モノ・事」という意味を表す。なお、such は形容詞として 〈such + (a [an]) ...+ 名詞 (句)〉 でも用いられる (語順に注意)。

I have never read **such** an interesting book.

私はそんなに面白い本は今まで読んだことがない。

【!】 as such (そういうものとして) という意味の表現もある。

She is only a child and should be treated **as such**.

彼女はまだほんの子どもなのだから、そういうものとして扱ってやるべきだ。

## 1 one と none

## 《1》 one, ones

43 I forgot a pencil. Can I borrow one?

798

鉛筆を忘れました。1本お借りできますか。

44 I think I lost my umbrella. I must buy a new one.

799

傘をなくしたようです。新しいのを買わなくちゃ。

45 These boots don't fit me well. Can I try those brown ones, please?

800

このブーツは合わないなあ。そちらの茶色いのを履いてみてもよいですか。

代名詞の one は、前に出てきた不特定の可算名詞の繰り返しを避けるために使われる。

1) one を単独で使う: 前に出た不特定の単数名詞の代わり = 〈a [an] + 名詞〉の働き。

43の one は a pencil の代わりで、不特定の鉛筆を「どれでもいいから1つ」という意味。

2) a + 形容詞 + one : 形容詞を伴ってどんな性質のものかを示す場合。a がつくことに注意。44の a new one は a new umbrella のこと。

3) 形容詞 + ones : ones は複数名詞を受ける。この場合、ones 単独ではなく、必ず修飾語がつく。45の brown ones の ones は boots という複数名詞を受けている。

cf. 形容詞をつけず、単独で複数形に対応させる場合は、some を用いる。

We need more eggs. There are some in the fridge, but we need more.  
もっと卵がいる。冷蔵庫にはいくらかあるけれど、もっと必要なんだ。

## 発展 「一般の人」を意味する one

one は「(話し手を含む) 人」「人は誰でも」という〈一般人称〉を表すことがある。(かたく) で、主に(書) で使われる。you, we, people を使う方が普通である。

**One is never too old to learn.** 学ぶには遅すぎることはない。

- 【!】 (1) one を受ける代名詞は、以前は(英) では one, one's, oneself, (米) では he, his, himself が用いられてきたが、(米) では最近では sexism の観点から、he or she, his or her, あるいは they, their などが用いられる傾向がある。
- (2) 辞書の句例などでは人称代名詞の主格の代表として one が、主語と一致する所有格の代表として one's が使われる。実際の文中では one が I, you, he, she, they などに変化することを意味している。

**類例** If you need *a dictionary*, I have **one** for you.

辞書が必要でしたら、1冊お貸しできますよ。

These *scissors* are broken. Can you get me new **ones**?

このハサミは壊れています。新しいのをくれませんか。

American *cars* are usually bigger than Japanese **ones**.

アメリカの車はたいてい日本の車より大きい。

We have a plenty of *sandwiches*. I'll get **one** for you.

サンドイッチならたくさんあります。あなたにも1つお持ちしますよ。

## 注意しよう！ 代名詞 one の注意すべき用法

one は不可算名詞を指すことはできないし、所有格をつけることもできない。

○ I ordered mineral water, not carbonated water.

✗ I ordered mineral water, not carbonated one.

私が注文したのはミネラルウォーターで、炭酸水ではありません。

○ That bag is not mine. あのかばんは私のではありません。

✗ That bag is not my one.

ただし、〈所有格+形容詞+ **one(s)**〉の場合は可能。

○ I have two bikes. This is **my new one**.

私は自転車を2台持っています。こちらが新しい方です。

※所有格、some, several, a few, both, 数詞などの後に one(s) を用いるのは(書) では避けられる。ただし間に形容詞が入る場合は可能。



## 《2》the one, the ones

- 46 Give me that *jacket*, **the** brown **one**.

801

そのジャケットを取ってくれ、その茶色いやつだ。

- 47 Please use those *glasses*, **the** **ones** on the upper shelf.

802

そちらのグラスを使ってください。棚の上段にあるやつです。

修飾語句をつけて特定の人や物を表すときには the を加える。単数の場合は the one, 複数の場合は the ones となる。

### ここが Point! 名詞の繰り返しを避けるための that / the one の使い分け

【問題】次の（ ）に that か the one の適当なほうを入れなさい。

The implication of his words is somewhat different from ( 1 ) of mine.  
彼の言葉の意図するところは、私のとは少し違っている。

“Which of those boys is your brother?” “He is ( 2 ) with long red hair.”  
「あの少年たちのうち、どれが君の弟なんだい?」「あの赤い長髪の子だよ」

【正解】(1) that (2) the one

(1) は、the implication という不可算名詞を指しているので、one は使えず、that を用いる。

(2) は the boy という特定の〈人〉を指しているので、the one を用いる。

※次の場合は、that / the one のいずれでも使える。

These bags are much bigger than **the one** [**that**] I bought yesterday.  
これらのカバンは昨日私が買ったものよりはるかに大きい。

**類例** Daddy, I broke my *racket* yesterday. Would you buy me **another**?

お父さん、昨日ラケットを壊しちゃったの。新しいのを買ってくれないかな。

**【!】** 不可算名詞の場合や、可算名詞の複数形について「もう少し…」を表すには **some more** を使う。

“This *wine* is very good.” “Thank you. Would you like **some more** (*wine*)?” 「このワインいいですね」「どうも。もう少しいかが?」

**【!】** 期間・重さ・距離など数量を伴う単位を表す名詞句をひとかたまりと見なした場合は、**another** の直後に可算名詞の複数形が来ることもある。

We were told to run **another five kilometers**.

もう5キロ走るように言われた。

### 【コラボ】 **another** を含む慣用表現

**from one A to another** (ある A から別の A まで)

A is one thing, (and) B (is) another (thing) (A と B とは別物だ)

A of one kind or another (何らかの A)

**one (A) after another** ((A が) 次から次へと)

**one another** (お互い) [目的格として動詞・前置詞の目的語として使ったり、～'s の形で所有格としても用いる]

one way or another (どうにかして、あれやこれや)

(to) put it another way (別の言い方をすると)

**類例** Several ladies were talking **to one another** in the room.

部屋の中では数人の女性がお互いに話をしていた。

**One plane after another** took off. 飛行機が次々と離陸した。

They looked into **one another's** eyes. 彼らはお互いの目を見つめ合った。

They use their boats to move **from one place to another**.

彼らはある場所から別の場所に移動するのに舟を使う。

**類例** Of the thirty members on our team, two of them are goalkeepers, and **the others** are field players. 30人の部員のうち、2人はゴールキーパーで、ほかの部員はフィールドプレイヤーだ。

He was holding a book in one hand while holding sandwich with **the other**. 彼は片方の手で本を支え、もう一方の手でサンドイッチを持っていた。

We have two kinds of cheese: One is Gouda and **the other** is Cheddar. 当店では2種類のチーズをご用意しております。ひとつはゴーダ、もうひとつはチeddarです。

Yesterday, I bought two laptops. One is for home use, and **the other** is for carrying around. 昨日私はノートパソコンを2台買いました。ひとつは家で使うもので、ひとつは持ち運び用です。

There are two guitar players in our band. One is Keith and **the other** is Brian.

うちのバンドにはギタリストが2人いる。1人はキースで、もう1人はブライアンだ。

**【!】** 〈**some other ...**〉は、形容詞的に **some other time** (また別の時に), **some other things** (また別のもの) のように使われる。一方 〈**some ... or other**〉は, **something or other** (よくわからないが何らか), **somewhere or other** (よくわからないがどこかその辺) などの表現で用いる。

Let's talk about it **some other time**.

その件についてはまた別の時に話しましょう。

Mizuki quit the school band for **some reason or other**.

みづきは何らかの理由で吹奏楽部を辞めた。

**コーパス** **other** を含む慣用表現

**each other** (お互い), **every other ...** (ひとつおきの…)

(→ **every other day** (1日おきに) / **every other Sunday** (隔週の日曜日に) など)

**other things being equal, ...** (他の条件が同じならば, …※分詞構文), **the other day** (先日), **on (the) one hand ~, on the other hand ...** (一方では~, 他方では…),

**the one ~, the other ...** (= **the former ~, the latter...**) (前者は~, 後者は…)

**類例** There are *tomatoes* in the refrigerator. Could you get me **some**?

冷蔵庫にトマトがあります。いくつか取ってくれませんか。

**Some of the furniture** in this room is very expensive.

この部屋の家具のいくつかは、とても高価なものだ。

Excuse me, can I ask you **some** *questions*? [形容詞]

すいません、いくつか質問をしてもよろしいでしょうか。

**【!】** 特定の人や物の集団の一部を指すには〈**some of + [the など限定詞 + 名詞 (句)] / 代名詞**〉を使い、不特定の集団の一部を指すときは〈**some + 名詞 (句)**〉を使う。

**Some of the students** come to school by bus.

生徒の中にはバス通学の者もいる。

**Some people** enjoy playing the guitar. ギターを弾くのが好きな人もいる。

**【!】** **some** は肯定文で使われるのが基本だが、肯定的な答えを期待する場面や、依頼・勧誘・申し出などの場合には、疑問文でも使われる。

Do you have **some** comments on my blog?

私のブログについてご感想は（あると思うのですが）ありますか？

How about **some** dessert? [yes を期待して] デザートはいかがですか。

Are there **some** problems? [yes を期待して] 問題はありますか。

cf. Are there **any** problems? [中立的に] 問題はありますか。

### 英語の原理 疑問文における **some** とは

**some** は「肯定的な答えを期待する場面（特に丁寧な勧め・申し出・お願いの場面）」などの場合に疑問文でも使われる。この使い方は肯定文とは違う特別で例外的な使い方のように感じられるが、どういうことだろうか。**some** の本質は上で確認したように「漠然といいくらか数量がある（存在する）」ことを表す。例えば，“What are you eating?” “Popcorn. Would you like **some** (popcorn)?”と言った時、**popcorn** は目の前に「ある（存在している）」。このように実際に「ある（存在している）」名詞について言及しているので、疑問文でも **some** を使うことが可能なのである。また実際に「ある（存在している）」ことを伝えるので、聞き手も話し手に新たな手間や迷惑をかける必要がなく、肯定的な返答をしやすい（**any** だと「あるか分からぬ」というニュアンスになるので、話し手に新たな手間や迷惑をかけることになるかもしれない肯定的な返答をしにくい）。

## 4 all, both, each

いずれも代名詞と形容詞の用法がある。



## 《1》all (代名詞・形容詞)

- 62 All *were* happy with the band's performance. [この all は people を指す]  
みんなはバンドの演奏にご満悦だった。 817
- 63 All of the information *is* available on our website.  
あらゆる情報は私たちのウェブサイトで閲覧できます。 818
- 64 My family all went shopping at the mall.  
うちの家族は全員でショッピングセンターに買い物に行きました。 819
- 65 "Did you read all these books?" "Yes, I read them all."  
「こちらの本は全部読んだのですか」「はい、全部読みました」
- 66 All the *demonstrators* were forced to leave the park. [形容詞]  
デモ隊は全員が公園から排除された。 821

all は、3人 [3つ] 以上の物、あるいは不可算のものの全体を指して、「すべて」という意味を表す。指すものが可算名詞の場合は62のように複数扱い、不可算名詞の場合は単数扱い。63のように〈all of + the などの限定詞+名詞／代名詞〉の形でも使う。また、6465では、all が（代）名詞の直後に置かれ、その名詞と同格であることを表す。66のように「すべての…」という意味になる形容詞用法もある。

**類例** All is well that ends well. 終わり良ければすべてよし。

**【!】** 主語と同格になる all は、be 動詞や助動詞を含む文の場合にはその直後に置く。  
We were all happy with the result. 私たちは全員結果に満足していた。  
They should all be here by nine. 彼らはみな9時までにここに来るはずだ。

**【!】** 特定の人の集団やモノの集まりのすべてを指すには 〈all + the などの限定詞+  
名詞／代名詞〉 を使う。これに対して、不特定の一般的な集団や集まりのすべて  
を指すときは 〈all + 名詞〉 を使う。

I'll send you all the necessary documents. 必要書類はすべてお送りします。  
All my kids like ice-cream. うちの子供たちはみなアイスクリームが好きだ。  
cf. Not all kids like ice-cream.  
全ての子供がアイスクリームが好きというわけではない。

## 《2》both (代名詞・形容詞)

- 67 “Which do you want, a hamburger or a hot dog?” “I’m hungry. I want **both** (of them).” 「ハンバーガーとホットドッグ、どちらがよろしいですか」  
「おなかが減っているので、両方ください」 822
- 68 We **both** like horror movies. 私たちは 2 人ともホラー映画が好きだ。 823
- 69 She invited us **both** [**both of us**] for dinner. 824  
彼女は私たち 2 人を夕食に招いてくれた。
- 70 High-rise apartments stand on **both sides** of the river. [形容詞]  
川の両岸にタワーマンションが建っている。 825

both は 2 人あるいは 2 つを指す。「両方とも」という意味でかならず複数扱いになる。

68 の both は主語 we と同格。69 は目的語 us と同格。70 は形容詞用法である。

**類例** Choose between those two, or you can have **both**.

これらの 2 つのどちらかをお選びいただぐか、両方とも受け取ることも可能です。

**Both (of) his parents have full-time jobs.**

彼の両親はどちらもフルタイムで働いている。

(both も all と同じく他の限定詞よりも前に置き、〈**both + the などの限定詞 + 名詞**〉の順で用いる。of が省略された形と見ることもでき、こちらの方がよく用いられる)

**【!】** 主語と同格の both は、be 動詞や助動詞を含む文の場合には、その直後に置く。

We were **both** born in Tokyo. 私たちは 2 人とも東京生まれだ。

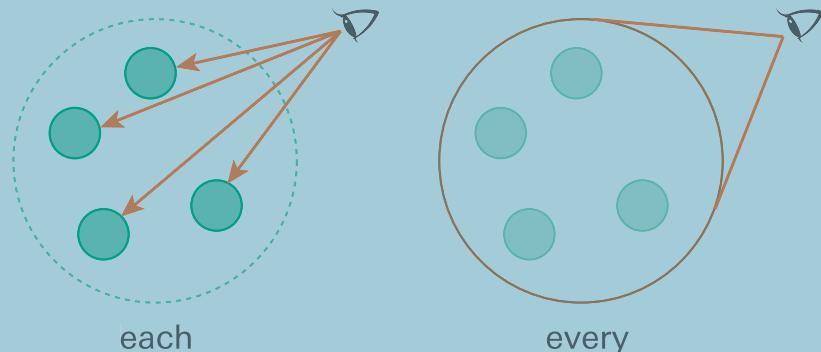
(We **both** were born in Tokyo. という言い方もできるが、We were **both** ... のほうが普通)

You should **both** be proud of yourself.

2 人とも、自分に誇りを持ってくださいね。

## 類義 each / every の使い分け

どちらも集団の 1 つひとつに目を向けて、単数扱いになる点で似ているが、両者には微妙な意味の違いがある。



## 相違点

each は要素の 1 つひとつに目を向ける一方、every は要素を意識しつつ全体を指す。

We are trying to meet the needs of **each** customer.

私どもはお客様 1 人ひとりのご要望にお応えすべく努力しております。

We are trying to meet the needs of **every** customer.

私どもはすべてのお客さまのご要望にお応えすべく努力しております。

2 者の場合には each しか使えない。

There were food stands on **each** [× every] side of the street.

通りの両側には食べ物の屋台が立ち並んでいた。

almost / nearly / virtually などの副詞や single などの形容詞と使えるのは every。

**Almost every** [× each] student owns a smartphone.

ほとんどすべての生徒がスマホを所有している。

each には単独で用いる代名詞用法があるが、every にはない。

**Each** [× Every] of the students is working hard for the midterm.

生徒たちそれぞれは、中間試験の勉強をがんばっている。

**【!】 each of ...** は原則単数扱い。〔ただし《くだけて》では、of ... 以下が長くなる場合には、後ろにくる複数形に引っ張られて複数呼応することもある〕

〈each + 人を表す名詞〉を受ける代名詞は《かたく・書》では he or she (主格), his or her (所有格), him or her (目的格) だが、表現上の煩雑さを避けるために、《ややくだけて》で現在では they, their, them で受けることが多い。これは 〈every + 人を表す名詞〉 についても同じである。

2人の人や2つの物について、「どちらか一方」「どちらでも」と言うには、73のように either を使う。

74のように〈either of + the などの限定詞+可算名詞（複数）／代名詞（複数）〉の形で使うことも多い。单数扱いが原則だが、（ただけた話）などでは複数扱いされる場合もある。place が入った75の形容詞用法では、後ろにくる名詞は单数。

76のように、not ... either（否定文）になると「どちらの～も…ない」という〈全否定〉の意味を表す。後で述べる neither を用いて、後半部分を ... I chose neither (of them) と交換可能。Either ... not という語順は不可。

× Either of my parents doesn't drink alcohol.

○ **Neither** of my parents drinks alcohol.

私の両親はどちらもお酒を飲まない。

※ either の前に他の限定詞を用いることはできないので、my either parent としない。

【!】 either A or B が主語になる時、（かたぐ）では動詞は B に呼応する。

**Either** you or I **am** to blame for the accident.

事故の責任はあなたか私にある。

## 6 many, much, more, most

- 80 Many of the students in our school go on to college. 835  
 我が校では大学に進学する生徒が多い。
- 81 My son spends much of his time playing guitar. 836  
 (かたく) 私の息子は多くの時間をギターを弾くのに費やします。
- 82 I'm sorry, but I can't give you any more of my time. 837  
 ごめんなさい、でもこれ以上私の時間をあなたのために使うことはできません。
- 83 Most of the people in Singapore can speak English. 838  
 シンガポールの人の多くは英語を話せます。

〈many [much, more, most] + of + the など限定詞+名詞／代名詞〉の形で数量を表す。many は可算名詞（複数）とともに、much は不可算名詞（単数）とともに用いられる。なお more, most に関しては、その後の名詞が可算名詞（複数）であれば複数扱い、不可算名詞（単数）であれば単数扱い。これらの代名詞には、形容詞としての用法もある（▶ pp.561-562）。肯定文で用いられると（かたく）響く。

【!】 同様のものとして、〈a few [little] of + the など限定詞+名詞／代名詞〉もある。few は可算名詞（複数）とともに、little は不可算名詞（単数）とともに用いられる。

We have a little of everything in our store.  
 当店では何でも少しづつ取り揃えています。

A few of her books have been translated into Japanese.  
 彼女の本は数冊が日本語に翻訳されている。

【!】 most は代名詞として、〈most of + the など限定詞+名詞／代名詞〉（…のほとんど）として使われるだけでなく、形容詞として、most ...（ほとんどの、たいていの…）という形でも使われる。

Most children don't like spicy food.  
 たいていの子どもは辛いものが苦手だ。

Most of the people in Tokyo live in urban areas.  
 東京の人の多くは都市部で暮らしている。

Ichiro spent most of his time preparing for the midterm.  
 一郎はほとんどの時間を中間テストの勉強に費やした。